

堀岡敏喜 議員



安心・安全な学校教育の確立 をどのように取り組むのか

問

大阪の高校生が体罰を苦に自殺した問題について聞く。

- (1) 教育長の見解は。
- (2) 市の実態はどうか。
- (3) 過去、現在にこのような事例があるのか。
- (4) 今回の事件を受けどのような対処をしたのか。

ここ数年体罰の報告はない

答 教育長

(1) 学校の部活動中において、体罰が背景にあると考える。自ら命を絶ったことは残念であり、大変胸が痛む事案である。

体罰は学校教育法で禁止されており、学校教育の現場はもちろんのこと、社会

生活上でも暴力による体罰で指導することは決して許されるものではない。

今後、このような痛ましい事案が二度と発生することのないよう、全ての学校や教育に携わる関係者が一丸となって、いじめ問題と同様、真剣に取り組んでいかなければならない緊急課題である。

- (2) 昨年4月1日からこの2月末まで、体罰の報告はない。
- (3) ここ数年、体罰の報告はない。
- (4) 体罰禁止の徹底を教職員に指示をした。

目指すは自殺者ゼロ 現状の認識は

問

現在の社会環境を踏まえ

うつ、自殺対策について聞く。

- (1) 津島保健所の資料によると、23年が8名、昨年6名の自殺者が出ている状況に対してどのような認識を持っているか。
- (2) 課題は。
- (3) どのような取り組みをしているか。
- (4) ゲートキーパー【】養成研修の開催時期及び規模等は。

 悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る人のこと。

- (5) 一般市民を対象にしているのか。
- (6) 今後の啓発、知識の情報に対しての取り組みについてはどうか。

自殺者の動機の6割 以上が健康問題と認識

答 健康推進課長

- (1) 22年死因別の死亡者で、自殺による死亡の順位は、7番目、率として7.5%

である。

自殺者の動機の6割以上が健康問題であるという認識を持っている。

- (2) うつ病等の精神疾患に対する適切な治療、更には、自殺を考える人は何らかのサインを発している。家族や同僚の気づきを自殺予防につなげていくことが課題。
- (3) ホームページに身近な相談窓口等掲載するとともに、ゲートキーパー養成研修の取り組みをしている。
- (4) 25年度3回、各団体や市職員を対象に予定している。
- (5) 各団体を優先に考えており、市民対象は、順次検討していく。
- (6) 広報、リーフレットでの啓発。学校配布のチラシ等の周知。ホームページを活用していきたい。